

久留米の自然



成体



幼虫

久留米の自然 106号 2009年10月1日
キアゲハと幼虫

撮影者 国分 謙一 撮影日 2009年8月末

産卵中のキアゲハと幼虫

国分 謙一

貴方も蝶を家庭に呼んでみませんか、写真は私の庭で8月末に写したもので、ニンジンに産卵している場面と幼虫は同じ日です。

久留米市内の家庭にはミカンやサンショウを植えてある所を良く見かけますが、それに産卵しているのはナミアゲハ（アゲハ）で、その傍らで幼虫や蛹も見ますが、キアゲハはミカンやサンショウには産卵に来ません。

黄色いアゲハ蝶なのでキアゲハと言われているように、飛んでいるときはナミアゲハと大きさも模様もほとんど同じように見えますが、全体が黄色く見えるので区別できます。しかし初心者である場合は、野外では図鑑などを持って確認してください、一度覚えたら間違えることはありません。

庭やベランダにも簡単に呼ぶことができる蝶で、キアゲハはセリ科の植物に産卵しますから、ニンジンやミツバ等のセリ科植物をハッポウスチロール等の空き箱で栽培していると、必ずと言ってよ

いほど産卵に訪れます。産卵している雌と同時に雄もその回りを飛んでいることがあります、交尾を目的に来ているのでしょうか、産卵している雌は見向きもしないようです。

幼虫は見た感じが毛虫、害虫等でなく、全体が緑色で、赤い点が数個入った黒い横縞があり、美しく感じられますので、今の季節に近所のニンジン畑等で幼虫を探して育てられたら如何でしょうか、直ぐに蛹となり翌春には蝶となります。ただし、幼虫は思いのほか大食なので十分食料を確保しなければいけません。また、幼虫に触れると頭部から臭角を出し一面に臭いを漂わせます、防御するためと思われています。

なお春の七草の一つであるセリを知らない方でも、10月中旬ころまでは、小川のせせらぎにあるセリに特徴のある幼虫がいますので、セリと判りますから翌春にでも摘みに行かれたらよいかも知れません。

久留米市の蝶 4 1**チャバネセセリ****国分 謙一**

空が澄み、野山にハギ等の秋の草花が咲く季節になると、それまでは殆ど見かけなかった蝶がその小さな花に訪れるようになります。

日本では秋になると個体数が増加する蝶がいますが、チャバネセセリもその中のひとつです。「茶色い翅のセセリ」の意味ですが、私たちが普通思う茶色ではないので、図鑑等で確認してください。とても地味な色彩で、体も小さいので近くにいるのに気付かない蝶ですから、身近に棲息しているのにほとんどの方は見たことが無い蝶だと思われます。私自身も秋になると何時の間にか自宅周辺で見るようになった蝶としか感じません。

雄と雌の区別は簡単で、雄の前羽表面に斜めに筋のような細い白の性斑が現れます、ただ花に来ているときは翅を閉じているので見るできませんが。

幼虫は稲、ススキ等のイネ科を食べるそうで、よく似たイチモンジセセリと違って稲の害虫として問題にはならないようです。

本当はどうなんだろう？

日本では日本海や太平洋に沿って関東地方までは初夏に少なく、秋になると良く見られますがより北の東北地方では非常に少なくなり、宮城県付近では採集されたら昆虫専門誌に報告されるほどになり、久留米市でも同じよう初夏には少なく秋になると市街地の中でも見かけるようになります。私が昆虫を始めた頃は非常に多かったのですが、現在はそんなに多くいるとは感じませんが、秋にはどこでも見るのでノートにもあまり記録していません。種類ごとに日本列島の分布を示した図鑑が色々ありますが、それぞれによって土着(冬を過ごすことができる) 範囲の記述が違ってきます。これは、あまりにも普通種なと害虫でもないのので研究する者が少ないからだと思われます。九州から北では幼虫で越冬するそうですが、私は

飼育したことがありませんから判りませんが、もしかしたら暖かい場所に居た幼虫だけが生き残っているだけで、久留米市でも実際には寒冷な年は越冬していないのかもしれませんが、貴方の観察で図鑑の記述が変わるかもしれない蝶です。

九州では近似種は生息していませんが、奄美大島より南の南西諸島には数種いて最も区別が難しい蝶となります。昆虫図鑑を見ると区別は簡単なのですが、図鑑に表示されるのは最も特徴を現した物が図示されていますので実際とは違っています。今、温暖化が言われ、このシリーズでも数種の蝶の分布の拡大を述べましたが、もしかすると九州本土には近似種が生息しているかもしれませんが、普通種なのと区別が難しいので標本にする人も少なく、知られていないだけかもしれません。

久留米市での観察

「久留米の自然」94号のイチモンジセセリと大きさや色彩がそっくりですが、チャバネセセリは後翅の裏面にとても地味で褐色の地肌にし訳ないほど小さな白斑が小さく弧を描いているので1mほど離れると紋が無いように見えるから区別できます。(イチモンジセセリは紋が判ります)

10月には市内各地の小さな草花やコスモスに訪れています、飛び方は速いので瞬間的に飛んできますが、驚かせない限り直ぐ近くまで接近できます、花に来ているときは羽を閉じていますから後翅の裏面の模様を確認してからそっと観察してください。



オス



メス



裏

郷土の樹木8

コジイ (一部スダジイ) 猪上 信義

県内の常緑林内で最も普通に見られる常緑高木で、樹高は1.5～2.0m、胸高直径は3.0～5.0cm、稀に1.0cmに達します。樹皮は灰褐色～黒褐色で滑らか(スダジイは老木では縦の割れ目ができる)。葉は互生、卵状長楕円形で、長さ5～1.0cm、幅2～3cm、先は長く尖ります。上面は濃緑色、下面は褐色うろこ状のものがあり、金属光沢があります。雌雄同株で虫媒花。雄花穂は5月ごろ、枝の下部につき、長さ5～1.0cmほど、淡黄色の花は木全体に付き、遠くからでもよく目につきます。また虫を呼ぶため青臭い臭いを発します。雌花穂は短く、ほとんど目立ちません。堅果はほぼ球形で径8～1.1mm(スダジイは先が尖り、やや大きく)、いずれも開花翌年の10～11月頃に熟します。日本の関東以西、四国、九州及び朝鮮半島南部の暖帯に自生します。

材は各種器具の柄、薪炭林、シイタケ原木などに利用できます。また樹皮は染料とし、果実はアクがほとんどなく、古来より食料に供されました。近年では環境保全や防火のための森林造成に植えられています。

久留米市内の天然林の斜面から尾根部にはごく普通に見られ、特に高良山周辺には100年を超える林分をはじめ広い範囲に分布しています。また50年ほど前まで薪炭林として利用されていた林が、燃料革命以降放置されたり、以前アカマツ林であったものがマツクイムシで上層が枯れたままになっている場所でも、コジイが主体の林になっています。もともと繁殖力は旺盛な木と思われませんが、カシ類やナラ類に比べると材質が劣り、木炭にして質が悪く、シイタケも良質なものが生えない上、大きくなった木を切るのが容易でないなど、いわば「お荷物状態」だったことも影響しているかもしれません。

スダジイは老木の樹皮が縦に割れる他、果実はやや大きく、先が長く尖り、色ははじめから黒褐色で、周囲はやや角張り、縦方向に筋模様が目立つなどの特徴があります。しかし中間的なものも多く、明確な区別は難しいようです。近年の研究ではコジイの葉の表皮細胞は一層だが、スダジイでは二層だということです。つまり顕微鏡で観察する手間を惜しまなければ、葉だけでも区別できることになります。但し私の経験では、一枚の葉でも一層と二層が混ざるのが見られましたので、そう単純なものではなさそうです。

かつて果実の形を基に、県内で両種の分布状態を調べたことがあります。その結果多少の例外はありますが、海辺に近い地域とやや高標高地(標高400～600m位)ではスダジイ、やや内陸の丘陵地～低標高地(100～300m位まで)ではコジイというように分かれました。久留米市内では大部分の地域でコジイが分布していますが、藤山町の低地の一部と標高の高い草野町吉木の長岩山付近ではス

ダジイが分布しています。

シイの実といえば緑日で売られている光景を見た方もあるでしょうが、これらは主に静岡県伊豆地方のスダジイだそうです。本県の福岡市志賀島、香椎、宗像地方などにもこれに劣らないほど立派なスダジイの実が得られます。ところで皆さんのお近くのシイの実は何のくらい大きさでしょうか。調べてみてはいかがでしょうか。

ひととき 動物笑い話 その50
イカとタコ 米田 豊

「(イカはしゃべるし、空を飛ぶ)を読んで、面白かったよ」「俺はタコに興味がある」「タコは欧米では一部の国を除いて、嫌悪されて食べられていないね」「それが幸いしているよ。日本近海ではタコさん獲れなくなって、アフリカ西岸の大西洋で漁獲しているが、あまり競合せずすむから」「大王イカとマッコウクジラの死闘の話は知っているか?」「うん、聞いた事がある。じゃ、タコは頭がいいのを知っている?、俺程じゃないが」とツルツル頭をなでる。「もちろんさ、ヒトに近いレンズ眼を持っていて、学習出来るんだから」「そうなんだ。それで俺、出版社に第二段として(タコは踊るし、勉強する)の題で出版したらと葉書を出したよ」「それで、返事はあったの?」「葉書はタコツボの中へ没になったみたい」とタコ口で。

*イカとタコは共に軟体動物の頭足類に属し、水産上重要種が多い。(Y. Y)

「動物笑い話」が本になりました。

この動物笑い話も今回で50号となります。作者の米田豊氏は当会の副会長で30余年当会のために尽力され、本年をもって職場を退職され故郷の金沢に帰られることになりました。そこで、当会といたしましていままでの連載分を一冊の本にまとめ、記念品として200冊を同氏に贈呈しました。9月20日橋田会長宅にて贈呈式が行われました。



高良川流域のキノコ (その8)

角 正博

前回まで、腹菌亜綱ホコリタケ目のうち、ホコリタケ科について述べてきました。腹菌類は孢子が成熟しても殻や管孔等を形成せず、外部に露出しないという形態的特徴から、従来の分類群では、ハラタケ類と並ぶ独立した分類群として扱われてきました。しかし、DNA分析の進歩とともに、腹菌類は高次の分類群を形成しているのではなく、形態の似通ったものを集めた人為的分類であったこと、そしてイグチ類、ハラタケ類、ベニタケ類などの多系統に分けられることが明白となり、分子系統に基づく新しい担子菌類の分類体系に当てはめて見直されることになったことは、すでに述べました。その結果、従来のヒメツチグリ科やホコリタケ科からなる腹菌亜綱ホコリタケ目も、ホコリタケ科はハラタケ亜綱ハラタケ目ハラタケ科へ、ヒメツチグリ科はスッポンタケ亜綱ヒメツチグリ目ヒメツチグリ科へと、より自然な系統関係に分けられて複数の分類群に所属することになり、従来の腹菌亜綱ホコリタケ目は、解体・消滅してしまいました。したがって前回までのホコリタケ科のキノコは、これからはハラタケ科のキノコへ所属替えとなり、今回述べるヒメツチグリ科は、スッポンタケ亜綱ヒメツチグリ目となります。しかし、とりあえずここでは初回にことわったように、広く人口に膾炙している従来の分類に従っておきます。

ヒメツチグリ科ヒメツチグリ属のキノコは、主に林内で腐植土上に発生します。その子実体には2~3層の外皮があり、熟すと星形に裂開してラップ状に開いたり、さらに外側に反転したりします。属名の *Geastrum* も、ge (土) + aster (星) = *Geastrum* で、腐植土上に群生し、星形に裂開する外皮の特徴を「地上の星」に見立てたものです。外皮は、薄い紙質で球形~卵形で、熟すと頂孔が開き孢子を放出します。ヒメツチグリ属の分類は、①外皮の反転の程度や裂開の形態、②内皮の外皮との接続形態が、内皮基部は無柄で外皮に「座生」するか、短柄を有し外皮に「柄生」するか、③頂孔を囲む円錐形の突起である「孔縁盤」や、さらにその周囲を円形に囲む「円座」の有無などをもとに行います。高良川流域では、次の2種が梅雨明け後の時期に見られるようです。

16. エリマキツチグリ (襟巻土栗) *Geastrum triplex*

外皮は黄緑色を帯びた黄褐色で、熟すと4~7片に裂開し、外側に反曲して星形になります。外側に反曲する際、外皮基部の内側の層は剥離して、外側に反曲せずにそのまま内皮の周りを襟巻き状

に囲みます。和名の由来は、このように内皮の周りを襟巻き状に外皮基部の内層が囲むことに因みます。学名 *Geastrum triplex* の種小名 *triplex* (三重の) も、星形に裂けた外皮と内皮の間に、襟巻き状の外皮基部の内層が見られることに由来します。内皮は平滑で灰褐色、基部は無柄で、襟巻き状盃形の外皮の上に座生します。内皮の頂部には短円錐形に突出した「孔縁盤」があり、その周囲を明瞭な「円座」が囲んでいます。高良山では、晩秋にも見かけました。

17. シロツチガキ (白土柿) *Geastrum fimbriatum*

外皮は黄褐色、熟すと5~10片に裂開して星形に反転します。反転した外皮の内側は平滑で白色、のち次第に黄褐色となります。内皮も平滑で白色のち次第に褐色となり、基部は無柄で座生します。頂部は短円錐形に突出した「孔縁盤」のみで、「円座」は不明瞭が見られません。

生き物に魅せられて

ハネナガウンカの巻 松永 紀代子

えっ、何だ？ 初めてシリアカハネナガウンカを見たのは2008年9月の夜だった。灯火に誘われ飛んできたらしい。おとぼけ顔に不釣り合いなグライダーのような透明の翅。顔を近づけるとツツツと動いた。何と面白い虫、その後も網戸に注意していたが、見かけることはなかった。

今年の夏、観察コースの一つの小さな池に行った。すごい湿気だ。背丈ほどにのびたジュズダマの葉裏に、「彼」はいた。今度は真っ赤な体のアカハネナガウンカだ。きゃ~何だか携帯にぶら下げたいようなキャラ。あらあら、大発生。こんなにいるのに、私にはお初だった。あまり生息場所から離れないのかもしれない。

指を近づけるとツツツと葉の表に回った。ならば正面からとカメラを向けた。くると後ろをむくと、トコトコと遠ざかっていった。もう一匹。今度はフツと浮かぶとジグザグに飛んでジュズダマの茂みの奥に消えた。

この虫にハマッタのは私だけではないらしい。友人のS氏はビデオを手に、足しげく通っているという。

笠崎八幡宮の大イチョウ 1本 高山 美子

福岡県指定天然記念物

所在地 久留米市大橋町蛭川1012

指 定 昭和61年8月28日

樹 高 29.7m

根本周囲 12.7m

枝 張 り 東西19.9m 南北17.3m

推定樹齢 約407年

イチョウは中国原産の雌雄異株の植物で、自生種はなく、古くから日本に渡来し、全国各地に植えられた。

このイチョウは雄株で実はつきませんが、樹勢は盛んで樹形もよく、古木の風格を備えています。

2008年撮影 撮影者 高山美子

**ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ) 河内 俊英**

リンゴガイ科の巻き貝の一種。淡水産の大型巻き貝で、タニシとは科が異なる。日本では「ジャンボタニシ」として有名な外来動物で、アジア全域においてもイネの害虫としてその悪名で知られている。アルゼンチン・ウルガイを流れるラプラタ川原産の貝であり1981年に食用として台湾経由で長崎県と和歌山県に持ち込まれたのが日本での最初であり35都道府県、495業者が養殖した。食用で持ち込まれたという点では、ウシガエルと共通である。しかし、需要が無く1987年以降は、全国的に養殖池が放置され野生化して特に西日本を中心に分布を拡大していった。水田や用水路にピンク色の目立つ色彩の卵を産み付けることから、気づく人が多く、イネを食害することがあり問題視されている。水路の壁面に多数産みつけられた卵が美観上問題になることもある。



この貝は、雌雄異体で適応能力が高く、雑食性で機密性の高い殻によって乾燥や農薬、電気などに強い耐性を示すことから防除が難しい。低温に弱いことから、冬は成体で土中にもぐり殻にこもって越冬するが、冬の死亡率は高い。生活排水が流れ込み水温の高い排水路などでの生存率は、高くなる。天敵としては鯉、鮒、アヒル、サギ、スッポン、蛍の幼虫等が報告されている。高い環境適応性と繁殖力を持つこと、天敵動物が少ないことから防除が難しい。病原体の媒体となり得ますのであまり素手で触らない方が良いと言われている。

一方でジャンボタニシを利用して、水田の除草をしようとする試みもあるが、水田が平らになるように代かきをし、微妙な水管理ができる条件が必要である。

実際の方法として、田植え直後は、水張りをゼロにして、ジャンボタニシを眠らせる。その後、1日1mmで水深を上げ、雑草の芽を食べさせる。10日後には一気に水深を5cmの深さにする。こうすると、株元が固くなった稲よりも、生えてくるやわらかい雑草を好んで食べてくれるので、除草剤を散布しなくても栽培が可能である。

例会報告

第369回例会バードウィーク探鳥会・高良山四季の森 5月10日(日) 参加者 26名

松富士 将和

いつも天気が良くて、青空の中での探鳥会になる四季の森バードウィーク探鳥会、今年も抜けるような清々しい青空になりました。

直前になって3家族がキャンセルになったという事で、参加者は26名と少なかったのですが、キビタキが鳴き、オオルリが鳴き、昼食時にはウグイスとホオジロが競い合って鳴き、ムササビもほんの傍から飛翔してくれ、木苺もいっぱい採れて、(探鳥会後の穂先タケノコも結構採れて)充実した探鳥会でした。

また、久留米の自然を守る会の角先生のキノコ観察会の際に倣った「野鳥ビンゴ」も大好評で、皆さん熱心に書きこんでいました。

ご協力頂いた久留米市農政部生産流通課、県朝倉農林事務所、久留米の自然を守る会の皆さんに、厚く御礼申し上げます。

野鳥の会にははじめて参加しました。いろんな鳥が見られて嬉しかったです。ビンゴゲームをして楽しかったです。 土井康希

たくさんのとりのこえがきこえてきてたのしかったです。ムササビがとんだところをはじめてみました。 たまちつきほ (小2)

観察した鳥 27種

コサギ、アオサギ、ミサゴ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カササギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(コジュケイ、ソウシチョウ)



野鳥の観察をする参加者



参加者全員による集合写真

第370回例会

高良台キノコ観察とキノコ汁会 丸山 由紀子

6月28日(日)、恒例のキノコ観察会を高良台で行いました。この例会は、ここ最近天候に恵まれないことが多かったのですが、今年は雨に降られることもなく、じっくりキノコウォッチングをすることができました。参加者は、常連さんを含めて9人。講師の金子先生(福岡県森林林業技術センター)の指導のもと、目を皿のようにして地面を見つめ、枯れ木を見上げていくと・・・あっこにも!という感じで、色や形もさまざまな多くのキノコと出会うことができました。特に、「キノコ」のイメージそのままの姿で、地面からよきと立っていたテングタケは、とても印象的でした。キノコの本体は、実は地面に張りめぐらされた菌糸で、いわゆるキノコ(子実体)の姿をとるのは、わずかな間です。しかも、時間と共に傘の形や色も変化していくので、とても同じ種類とは思えないようなものもあります。そんな「得体の知れなさ」もキノコの魅力のひとつなのではないかと思います。観察終了後、金子先生の興味深いお話を聞きながら、おいしいキノコ汁とキノコご飯をいただきました。



参加者全員による集合写真

高良台きのご観察会採取きのこリスト

	科名	種名
1	ヒラタケ科 (1)	アラゲカワラタケ (2009 年新)
2	キシメジ科 (10)	カレバキツネタケ
3		アマタケ
4		シロホウライタケ
5		クロゲシジミタケ
6		ヒメムキタケ
7		オオホウライタケ
8		ニセホウライタケ
9		ホウライタケ属
10		クヌギタケ属
11		ダイダイガサ
12	テングタケ科 (6)	ヒメコナガブリツルタケ(2009 年新)
13		テングタケ
14		ツルタケ
15		タマゴテングタケモドキ(2009 年新)
16		コテングタケモドキ(2009 年新)
17		ヘビキノコモドキ
18	ハラタケ科 (1)	キツネノハナガサ
19	ヒトヨタケ科 (1)	イタチタケ(2009 年新)
20	フウセンタケ科 (1)	アカヒダワカフサタケ
21	ヒダハタケ科 (1)	サケバタケ
22	イグチ科 (3)	アワタケ
23		キイロイグチ

24		アイゾメクロイグチ(2009 年新)
25	ベニタケ科 (9)	クロハツ
26		シロハツ(2009 年新)
27		オキナクサハツ
28		キチャハツ (2009 年新)
29		ツギハギハツ(2009 年新)
30		ニオイコベニタケ
31		ヤブレキチャハツ(2009 年新)
32		ドクベニタケ(2009 年新)
33		チョウジチチタケ
34	シロソウメンタケ科	アリノタイマツ
35	ウロコタケ科	モミジウロコタケ
36	サルノコシカケ科 (6)	ヒイロタケ
37		アミスギタケ
38		スジウチワタケ(2009 年新)
39		ヒトクチタケ(2009 年新)
40		ハカワラタケ(2009 年新)
41		ウスバシハイタケ
42	マンネンタケ科	マンネンタケ(2009 年新)
43	タバコウロコタケ科 (1)	ニッケイタケ(2009 年新)
44	ニセショウロ科 (1)	ニセショウロ科
45	ホコリタケ科 (2)	ホコリタケ科
46		ノウタケ(2009 年新)
47	キクラゲ科	アラゲキクラゲ
48	アカキクラゲ科 (1)	チノマタタケ
49	キンカクキン科 (1)	ニセキンアカビョウタケ(2009 年新)

(同定 金子周平)



コテングタケモドキ

《行事案内》

◇ 第373回例会：

ネイチャーゲームと自然観察会

高良内幼稚園横から四季の森を通り森林公園までの竹の子コースを歩きます。昼食後、ネイチャーゲームをします。帰りは後谷コースで下山します。秋の自然を満喫しましょう。ご自由にご参加ください。

〔日 時〕：10月18日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：9:30・14:30 高良内幼稚園
駐車場

〔参加費〕：無料

〔共 催〕：くるめネイチャーゲームの会、
久留米市農政部生産流通課

◇ 第374回例会：

高良山・四季の森

バードウォッチングウィーク探鳥会

11月のバードウォッチングウィークは冬鳥たちが訪れ、山から里山に降りてきた鳥たちでにぎやかになる頃です。新しく整備された高良山・四季の森の秋の探鳥会は、どんな鳥たちと会えるでしょうか。

〔日 時〕：11月8日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：9:00・15:00 高良内幼稚園駐車場

〔参加費〕：100円

〔持ち物〕：弁当、水筒、帽子、筆記用具、あれば望遠鏡など。

〔共 催〕：日本野鳥の会筑後支部、久留米市農政部生産流通課

◇ 第375回例会：

高良山キノコ観察とキノコ汁会

秋のキノコはどんなものに出会うでしょうか。ワクワクしながら探しましょう。

〔日 時〕：12月6日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：9:30・15:30 高良内幼稚園駐車場

〔参加費〕：300円

〔持ち物〕：マイはし、マイカップ、水筒

〔共 催〕：久留米市農政部生産流通課

《事務局だより》

今いろいろな所で、地球温暖化防止とかエコ対策とか言われています。政府は“高速道路は無料化にする”と言っていますがそうすれば一般車両の通行量は確実に増えるのは目にみえています。また、それにともない排気ガスは増えます。

JRや航空機やフェリー等の公共機関を利用すればCO₂は少なくなります。

今まで通り料金を取って無駄な税金を使わず排気ガスを減らすべきです。

今の政府は云う事が全く相反してはいないでしょうか。このままだと、あと10年もしたら地球の温度は平均2℃上がるそうです。

後世のために資源や地球の自然を守るのが、私達の大きな課題ではないでしょうか。

「久留米の自然を守る会」ホームページもご覧ください。<http://kurumenoshizen.net>

1. 会員異動

退会 富松弘恵、亀野勝利、井上忠助、橋本邦雄(久留米市) 山内 芳(篠栗町)

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号107号は平成22年1月1日発行予定です。原稿の〆切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、山川コミュニティセンターで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(10月7日、11月4日、12月2日)

久留米の自然

平成21年10月1日 第106号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 0942-43-2400 FAX 0942-43-2408